

再評価結果（平成16年度継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道180号 <small>そうじゃ いちのみや</small> 総社・一宮バイパス	事業区分	一般国道 (二次改築)	事業主体	中国地方整備局
起終点	自：岡山県岡山市櫛津 至：岡山県総社市井尻野	延長	15.9 km		
事業概要	一般国道180号は、岡山市から松江市に至る延長約170kmの主要幹線道路である。 総社・一宮バイパスは、岡山市北西部及び総社市における交通混雑緩和及び交通安全の確保を目的として計画された延長15.9kmの道路である。				
S48年度事業化	S63年度都市計画決定	H元年度用地着手	H元年度工事着手		
全体事業費	約530億円	事業進捗率	15%	供用済延長	1.8 km
計画交通量	40,500台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) : 3.5 (残事業) : 4.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 335/476億円 (事業費：293/416億円) (維持管理費：41/60億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,621/1,665億円 (走行時間短縮便益：1,485/1,523億円) (走行費用減少便益：100/99億円) (交通事故減少便益：36/42億円)	基準年 平成15年	
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（新幹線駅岡山駅へのアクセス向上が見込まれる） ・生活環境の改善・保全（夜間騒音要請限度を超過している地区の騒音レベル低下が見込まれる）				他16項目に該当
関係する地方公共団体等の意見	総社・一宮バイパスは交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、岡山市をはじめとする関係4市の首長等で構成される一般国道180号岡山県整備推進期成会より早期整備の要望を受けている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	団地開発、大学設立並びに商業施設の立地等による交通量の増大により、慢性的な交通混雑や交通事故が発生している。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	岡山総社IC関連の1.8kmを供用しており、残る区間については、用地買収を促進している。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	投資効果の早期発現を図るため、段階的な整備を図ってきた。残る区間については、早期全線供用を目指し事業を推進する。				
施設の構造や工法の変更等	扁平なトンネル断面を採用し、内空断面を縮小することにより、コスト縮減を図る。 建設副産物の発生抑制や再生材利用等によりコスト縮減に努めている。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。